



高知県立梶原高等学校

高知県立梶原高等学校
同窓会事務局

〒785-0610

高知県高岡郡梶原町
梶原1262

TEL(0889) 65-0181

FAX(0889) 65-0172

令和2年3月発行

同窓会通信



「令和の時代を切り拓く若者へ」

〜プラス思考で生きよう!〜

同窓会副会長 竹崎美栄子

新しい時代となって迎える津野山の冬は、雪のない穏やかな年明けとなりました。平素は、梶原高校同窓会にご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、令和の時代となり最初の卒業を迎える42名の生徒の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから先、あなたたちは、それぞれの道に向かって夢と希望を持って進んで行かれることでしょう。社会に出れば、失敗や間違い、やりたいことがうまく行かないことの方が多いと思います。しかし、あなたたちをたくさんの方がいつも見守ってくれていることを忘れないでください。もし、困難にぶつかった時、気持ちに折れそうになった時は、一人で悩まずに誰かに相談してください。きっと解決の糸口を見つかることができはるはず。

そして、どんな時も笑顔を保つようにしてください。あなたの笑顔は周りの人たちだけでなく、あなた自身も支えてくれるはず。いつでも、「何とかなるさ」と物事を楽観的に考えて、笑顔を絶やさない生き方をしてください。「どうにもならない」と悲観ばかりしている人に成功者はいないと思います。今

日を晴れ晴れと生きてください。最後に、若いときは、ついつい無理をしていますが、どうか体を大事にしてください。



令和元年度の梶原高校の現状と課題

梶原高校 校長 岡田 圭司

1 はじめに

校長としても初めての本年度は、元号が平成から令和へと変わり新しい時代の到来を感じる年となり、この津野山地域、この梶原高校での一年間で多くの気付きと学びがありました。一つには、一時期本校に廃校の危機があり、保護者、地域の方と一丸となってその危機を乗り越えてきたこと、その過程で本校の存在意義が確認・共有され、魅力ある学校づくりが地域とともに行われ、現在のように保護者・地域から協力をいただける、存在感のある学校となってきたことは、高知県の中山間地域振興の要であるといわれる学校振興の先駆けとなっていると感じています。い

わば、梶原高校の魅力ある学校づくりの取組は県内の中山間校のトップランナーであるといつても過言ではないと思っています。また、津野山地域ならではの豊かな自然と伝統文化が守り継がれ、総合的な学習・探究の時間や連携教育など、本校の教育活動を進めるうえで強固なバックボーンとなっています。一つの例として、本年度25校が応募し、一次選考で50校に選考の後、最終10校で迎えた観光甲子園（観光庁後援）の決勝大会に進出し健闘することができたのは、この地の自然と伝統文化、そしてそれを守り継承してき

い。そしていつかまた、ふる里に帰ってきてください。待っています。

た地域の方々の営みがあったからこそと考えておりますし、野球部をはじめアーチェリー部、バスケットボール部、剣道部等の部活動が活発に実施できるのも保護者の皆様は勿論地域の方が関心を持ってくださり、また支援助くださるからこそと考えております。このように営々と守られてきた環境と本校に寄せていただく支援に支えられ、生徒たちの成長が実現しており、今後も変わらず応援いただければ幸いです。

2 梶原高校の現状と今後の取組

本年度は17年ぶりの各学年2クラス、全校生徒127名でのスタートとなりました。このことは職員数にも反映されています。また、中山間の学校振興のためにICTを活用した遠隔教育が本年度から始まりました。令和2年度は補習だけでなく、単位認定のある授業としても実施されます。また、2021年4月からの運用予定として、本校としては寮として活用させていただく生涯学習交流センター（仮称）の建設も今後進んでまいります。タブレットの整備につきましては本年度は生徒用として43台整備していただきました。このように学習環境、生活環境、部活動等に専念できる環境が充実してきています。本

種別	男	女	計	就職・進学先等		
大学	国公立	1	2	3	高知県立大学(2)	高知工科大学
	私立	5	3	8	名古屋経済大学	花園大学
					関西学院大学	神戸医療福祉大学
短大	1	1	2	2	高知学園短期大学	大分短期大学
専修学校等	県内	2	0	2	中村高等技術学校	高知職業能力開発短期大学校
	県外	0	2	2	東洋きもの専門学校	大阪プライダル専門学校
就職	県内	3	1	4	関西新洋米村(株)	(株)日産サティオ高知
	県外	2	1	3	(社)福海(有)	(有)ジョイントショップ・キタオカ
					日本食研ホールディングス(株)	(株)キャプティ
公務員	3	0	3	自衛官候補生	一般曹候補生	榑原町役場
その他	0	0	0			
合計	17	10	27			

平成30年度卒業生(男子20名、女子11名、計31名)

平成30年度進路決定状況

平成31年2月現在

- ① 生徒数の確保——入学生徒数の増加に向けた取組により1学年2学級を確保
- ② キャリア教育の推進・地域をテーマとしたプロジェクト学習の充実
- ③ 多様な生徒の希望進路を確実に実現する進路指導
- ④ 部活動のさらなる活性化(野球・アーチェリー・バスケットボール・ディスカバークラブ(津野山神楽)・家庭クラブ等)
- ⑤ 寄宿舎を活用した遠隔地からの生徒の受け入れ・寄宿舎の新設と指導体制の強化
- ⑥ ICTを活用した授業の充実(遠隔教育・タブレット利用)

(1) 生徒数の確保——入学生徒数の増加に向けた取組により1学年2学級を確保
 ここ数年、連携中学校2校からの進学率は向上してきています。特に榑原中学校からは約9割となっています。次の目標は東津野中学校からの進学者の確保です。2学級を維持するための41人以上の入学生を確保するため

には連携中の進学状況が重要となります。東津野中学校の生徒、保護者、また地域の方々に本校の状況をしっかりとアピールします。また本校の進学状況を向上させるとともに、これまで以上に進路保障と部活動の充実に取り組む、連携中以外の生徒を受け入れることにより、2学級を確保しなければならぬと考えています。

(2) キャリア教育の推進・地域をテーマとしたプロジェクト学習の充実

本校の特色である地域をテーマとするプロジェクト学習「YELLプロジェクト」(歴史から生態系、産業、衣・食・住に至るまで「地域を知る・課題を見つける・課題解決の方策を考える」①生徒の地域への興味・関心、地域貢献等の意識を醸成する。②地域連携、地域活性化支援による地域と一体となった学校の魅力化を推進する。という取組)を通して、生徒が地域の方々と繋がり課題解決のための体験型の活動を行うキャリア育成をより充実して行います。

(3) 多様な生徒の進路希望を確実に実現する進路指導

少人数を生かした授業(習熟度別授業等)を核に、各種の補習、添削、教育相談等の個別指導により成果に繋がっています。進路保障に向けた平常補習、土曜補習、長期休業中の補習等
 大学受験を目指す生徒を中心に、土曜補習(全学年で実施、大学進学・公務員等に対応)



平常補習、長期休業中の補習、特進コース(グループS)等の補習、また、塾講師を招聘した特別補習(ハイパー補習)を実施しています。今後は難関大学への進学希望者もいますのでこの流れを継続し、成果に繋がりたいと考えています。

(4) 部活動のさらなる活性化(野球・アーチェリー・バスケットボール・ディスカバークラブ(津野山神楽)・家庭クラブ等)

体育系では野球・アーチェリー・バスケットボール、また文化系では津野山神楽や家庭クラブ等の特色ある部活動を中心に、部員数の確保や成績向上といった面で成果がでていきます。現在、野球部とアーチェリー部が高知県運動部活動強化推進校Bに指定されており指導体制を充実させ、更なる飛躍に取り組んでいきたいと考えています。

(5) 寄宿舎を活用した遠隔地からの生徒の受け入れ・寄宿舎の新設と指導体制の強化

今年度は全校生徒115名の約3分の1にあたる39名の生徒が2つの寄宿舎に分かれ生活をしており、「孝山寮」の充実が必須であり、寮生の多くは野球部に所属しており、榑原高校野球部を求め集まってくる生徒は今後も見込めると思われ、それらの生徒が充実した生活を送れることは重要であり、今後は県外からの生徒やグローバル社会への対応等様々な観点からも寄宿舎の充実が重要であり、現在榑原町との協働で新設の寮の建設に向かって進んでいます。選ばれる学校「わざわざ榑原高校」に向かって進んでいきたいと考えます。

(6) ICTを活用した授業の充実(遠隔教育・タブレット利用)

平成30年度より文部科学省の指定事業として遠隔教育システムを導入し、補習授業をはじめ英語ディベート、小論文指導、生徒会交流などの試行授業に取組み、31年度からは、本格的に計画導入することになります。この制度を有効に活用し、大学入試改革に対応していきたいと考えております。また、タブレット端末(Tab)を導入し、



授業等に取り入れて県内でも先進的な取り組みを実践し、更なる教育環境の充実を図っていきたくと考えています。

4 進路

進路決定状況は上表の通りです。本年度は国公立に3名合格、また、難関大の関西学院大学をはじめ四年制大学にも多数の者が、また公務員にも3名が合格を果たしています。今後も進路未定者の早期決定に全力を尽くしていきます。

5 おわりに

今年度は平成から新しい年号に変わる年です。また、「県立高等学校再編振興計画、後期の5年」がスタートしました。この年間の成果が榑原高校のこれからの運命づけるといってもよいでしょう。補習等の充実やさらなるキャリア教育の推進など、これまで以上にきめ細かな指導を計画し実施し、中山間のモデル校として輝き続ける必要があります。榑原高校は、この津野山地域にとって絶対になくならない学校であり、学校としても学校の魅力化と生徒数の確保に向けて、生徒、保護者、地域と一体となって、存続に向けた取り組みを強化して行かなければなりません。そのためにも、われわれ教職員一同、一層努力してまいります。同窓会の皆様におかれましては、本校の取り組みに對しまして、ご理解とご助成をいただきましたら幸いです。

遠隔授業始まる

中山間地域の小規模校では、生徒数が少ないことから一人ひとりに丁寧な指導ができる反面、各教科・科目の専門知識を有する教員を十分に確保できないなど、教育機会の確保が喫緊の課題でした。特に、生徒の能力、適性、興味・関心、進路希望などが多様化する中、遠隔授業を導入することで、他地域の生徒と一緒にさまざまな専門性のある先生方から学ぶ機会を得ることができ、より多様な学習機会を得ることが可能となります。

本年度、本校にも遠隔授業の機器が導入され、他校と連携した遠隔授業が可能となりました。遠隔授業の最大のメリットは、場所を問わず、専門性の高い授業を多様な形態で受けられることです。双方向性の動画と音声により、リアルタイムで授業が配信され、単に見聞きするだけの授業ではなく、質疑応答も双方向のやりとりが可能となり、遠隔授業を通じて考えたことを発表することも瞬時にできるようになりました。

また、提携校同士の生徒が授業を通じて、互いに意見を述べ合い、学び合うことができ、これも大きな特徴です。生徒同士の交流が深まるだけでなく、ディベートを通じて生徒の学習活動を活発化し、思考力や表現力、コ



ミュニケーション能力を伸ばす効果も大いに期待できます。

まだ始まったばかりの遠隔授業ですが、提携校の教員と協力し、授業における問題点や課題を検討し、生徒の学習意欲をいかに喚起するか、高い学力の定着をいかに図るかなど指導方法や機器の活用等について研究を重ねていきます。

参加生徒の声

2年女子

私は、遠隔授業に参加する前は、授業がちゃんと成立しないだろうなと思っていました。実際に授業に参加してみると、画面越しに質問ができ、会話も普段の授業を受けているようで、今では抵抗が全くないです。他校の人との交流もできるので、楽しく参加できています。

2年女子

私たちのような山間地域の学校は、他の学校との関わりがあまりないので、この遠隔授業はとても良い経験になっています。私は、小論文と英語のディベートの授業に参加していますが、ディベートでは、実際の大会に備えて練習も兼ねて他校の人たちと関わることもできるので、とても良いと思います。たま

に、音声の遅延やノイズがあったりしますが、ちゃんとコミュニケーションが取れるので、許容範囲だと思います。

ディベートは嶺北高校とやっていますが、彼らのレベルが高いので、とてもいい刺激になっています。井の中の蛙大海を知らずということわざがありますが、上には上がいるということを知りたい機会になっています。遠隔授業を通して自分の力を知り、もっと伸ばしていきたいと思っています。

2年女子

私が参加した遠隔技術を用いた交流は、四万十高校と窪川高校の生徒会の方々とクイズを通して交流するというのが最初でした。こういった遠隔交流するのは初めてで、交流に対して楽しみな気持ちもある反面、上手くいくのだろうか、何を話せばいいのだろうか、と不安な気持ちが大きかったです。でも、いざ始めてみると予想していたよりもスムーズに進み、クイズもその地域にまつわる内容だったので、楽しく盛り上がりながら知識を増やすことができました。この遠隔交流では、各校の特色や各地域のことなどを問題にしてクイズを行い、参加者全員が発言し、積極的な意見交換ができたと思います。また遠隔交流をする機会があれば参加したいと思っています。



開校記念講演会

11月21日（水）に、本校同窓会会長熊田光男氏を講師としてお招きし、「龍馬の先を駆けた男〜吉村虎太郎と津野山の仲間たち〜」と題してご講演いただきました。大変多くの資料や写真をスライドにして説明下さり、学校の授業では知りえない郷土の英雄の話に、生徒はもちろん、教職員、地域の方々も興味津々の様子でした。生徒たちの感想文をいくつか紹介します。

1年男子

吉村虎太郎は、人のために行動を起こしたすばらしい人だと思った。龍馬とも関係があり、龍馬のあこがれの人物であったということも驚きだったが、脱藩を2回したことにも改めて驚いた。心が優しく、人を引きつける魅力のある虎太郎のようにになりたい。

今の日本があるのは、虎太郎や龍馬などのお陰であるので、感謝したい。自分の地元の人が活躍していたのがうれしく思えた。このような講演をまた聴きたい。

1年女子

明治維新といえば、坂本龍馬などの人しかあまり知らなかったけれど、たくさんの方が関わって、行動したことに感動しました。「国を変えたい」という強い思いが、自分の命を顧みず戦いに挑んだのだと思います。

「一心公平無私」自分のことより、人のために動けた虎太郎さんはすごいと思いました。彼のように、自分のことより人のために動ける大人になりたいと思いました。そして、「平等」は、昔も今も変わらない人々の願いだと思いました。多くのことを学んだ講演でした。

2年男子

今日の講演で、吉村虎太郎について深く知ることができました。吉村虎太郎の名前は知っていましたが、具体的にどのようなことをした人なのかは知りませんでした。虎太郎は



龍馬よりも先に、日本を変えるべく行動を起こした行動力のある人だと思いました。

今の日本を形作った幕末の志士たちのような強い意志と行動力を持つ人になりたいと感じるようになりました。津野山地域から日本を変えた男たちの行動力にも感動しました。

2年女子

私は、幕末に何が起こったかは大体知っていましたが、津野山出身の偉人が龍馬に先立って行動を起こしていたことがすごく驚きました。

自分の人生を犠牲にしてまでも、みんなのことを考えていた虎太郎さんは、次の世代にも語り継がれて欲しいと思いました。私も誰かのために行動できる人材になりたいと、今日の講演を聞いて考えました。

3年女子

吉村虎太郎の偉業がよく分かった。今回のように、郷土の偉人の話を伝えて下さる方がいらっしやることに感謝したい。ここ数カ月で、高知県にはたくさんの方々がいたことを知ることができた。これからの歴史の見方を少し変えることができた。

3年女子

幕末の高知の有名人といえば坂本龍馬という印象でしたが、龍馬以外にもたくさんの方が活躍していたということがよくわかりました。虎太郎が脱藩第1号ということや、龍馬よりも一足先に行動していたことに驚きました。

また、百五十年以上を経た今でも、志士たちの墓所や彼らの遺品が家宝として、終焉の地で大切にされていることや、幕末の歴史が今でも彼の地で語り継がれていることに感動しました。



同窓会總會のお知らせ

平成31年度は、2年に一度の同窓会總會が開催されます。日時・場所等については現在未定ですが、開校記念日である11月21日近辺での開催を予定しております。多数の皆さまのご参加をよろしくお願いたします。

平成30年度 橋原高校同窓会役員

会長	熊田 光男
副会長	西村 信明
副会長	竹崎美栄子
副会長	高橋 志治 (校長)
副会長	井上 稔 (教頭)
庶務	北岡 良一 (総務部)
庶務	長岡さおり (事務長)
理事	玉川 豊
理事	下元 善一
理事	二宮 健志
理事	中越 智亮
理事	森山 学
理事	梶原 布佳世
監査	上田 知子
監査	木谷 克仁

事務局より

この通信は、橋原高校、橋原町・津野町役場、橋原地域活力センター（ゆすはら・夢・未来館）、JA、高知銀行支店、橋原病院に置かせてもらっていますので、ご自由にお取りください。